

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	(有) のどか	評価実施年月日	平成20年11月1日～平成20年11月15日
評価実施構成員氏名	山本 鈴子 安藤裕啓 藤原賢一郎 成田啓子 谷村ひとみ 中村傑 河西優 御法川幸子 内田麻梨		
記録者氏名	山本 鈴子	記録年月日	平成20年12月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを 支えていくサービスとして、事業所独自の理 念を作り上げている。	入居者さんが地域の中で自分らしく暮らしていく事ができるよう、わかりやすい言葉で 理念をつくっている。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は玄関前に掲示し、常に目に触れる所にある。ミーティング、記録、申し送りや 色々な関わりの場面の時に理念に沿ったケアであるか話し合いを持っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続け ることを大切にしたい理念を、家族や地域の 人々に理解してもらえるよう取り組んでい る。	玄関の目に触れやすい所に掲示されており、訪問客にも理解出来るよう取り組んで いる。ご家族には月一回、通信や写真などで事業所の実践や役割を伝えている。	○	地域の人々には地域のイベント・町内会清掃・花壇管理などに入居者さ んと参加していくうちに、理解を少しずつ得ている。これからも続けていき たい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえ るような日常的なつきあいができるように努め ている。	散歩や外出時には近隣の方と気軽に挨拶を交わすことを心掛けている。	○	町内会の方に夏まつりのご案内をして参加していただいている。少しずつ 参加してくれる方が増えて来ているが、気軽に立ち寄っていただける環境 にはなっていない。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に 参加し、地元の人々と交流することに努め ている。	町内会の一員として総会に出席したり、役割(花壇管理)を持っている。小学校の運 動会、音楽会に出席したりと町内の行事には入居者さんと参加している。	○	地域に出掛けて行き、参加することだけでなく、私達の役割として地域に 貢献できることを考えていきたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り組 んでいる。	スタッフは研修の機会を多く持ち、知識や実戦経験を積み上げ力をつけている。この 力を地域で貢献させることが来年度の課題と考えている。	○	認知症に関する講習会を町内会などの地域で開催していきたい。認知症 の相談を気軽に受けれるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		入居者が地域の中で自分らしく暮らしていく事ができるよう、わかりやすい言葉で理念をつくっている。		
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の内容で出来ている点、出来ていない点をよく話し合い、出来ていない点については改善できるように取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では当ホームの活動状況・ヒヤリハットの報告をし、その時々テーマについてご意見を伺ってサービスに生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当者には事業所の実情や困難に思っていることを相談している。	○	健全な事業所であるためにはわからないことや不安に思っていることをこれからも積極的に相談していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	各種研修に参加し、権利擁護については理解を持っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	ミーティング・運営推進会議でもテーマとして取り上げ、話し合いをしたり、ご意見を聞き意識を高め防止を徹底している。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	この一年間は契約も解除もなかった。契約の改訂(暖房費の値上がり)があったが、ご家族とは話し合い、了解を得ている。	○	重度化や看取りについての対応はご家族と話し合い、同意を得ている(全ての人ということではなく、時期をみてその都度話し合っている)。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉、態度から訴えられない思いを察する努力をし、利用者本位であることを心掛けている。日々の生活の中で本人の意思を確認し、自分の意思で表出できる関係作りを心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月通信を発行し、個人の状況も書いて送っている。行事などの時の写真はA4用紙に印刷して送っている。その他個人のアルバム帳を作成し、ご家族の面会時に見ていただいている。金銭は月末締めで報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会はつくっていないが、全家族に運営推進会議の会員になっていただき、その席上で意見や要望、提案などをお聞きし、運営に反映している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1度のミーティングにおいて問題点について話し合いを持ち、又不都合などがあつた場合にはそのつど話し合いの場を持っている。	○	日頃からコミュニケーションに心掛け、問いかけたり聞き出したりするようにしている。時には個別の面談を行っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の自由な暮らしを出来る限り支えられるように入居者の状況やペースに合わせたローテーションを組んでいる。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	3年目になるが離職者はいない。職員が固定化し、馴染みがケアすることで入居者さん、ご家族に安心を与えていると思う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修はなるべく多くの職員が受講できるようにしている。またそれらの研修報告は毎月ミーティングで発表してもらい、研修報告書は全職員が閲覧出来るようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の研修会にはなるべく多くの職員が行ける様にしている。知り合いの病院で月一度の勉強会があり、同業者が集り意見交換会をしている。職員もなるべく多く参加できるようにしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握するように努めている。	○	職員と入居者さんが離れて一息入れる時間を持ってもらうようにしているが、ゆっくり出来る居心地の良い場所を提供できていない(ハード面で手狭である)。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員のやりがいなど向上心を持てる職場環境・条件について具体的に配慮・工夫をしている。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視ながら職場で活かせる労働環境づくりを努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人の置かれている状況を理解し、苦しんでること、困っていることを把握しご本人・ご家族の思いを受け止め、安心していただいています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでの家族の苦労や思い、今までのサービスの利用状況などの経緯についてなどをゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで落ち着いてもらい、次の段階の相談につなげている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族の状況を見極め、優先的に必要なことは何かを話し合っている。出来ないと思うことも安易に逃げずに方策を考えいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族の都合などでご本人が納得する間もなく入居される場合があるがご家族やそれまで関わってこられた関係者に来てもらうなどして安心感を持ってもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	支援する側・支援される側という意識を持たず、お互いに協力しながら和やかな生活が出来るように場面づくりをする。一緒に楽しめるような関係作りをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者さんの様子や日々の暮らしの出来事や気付きの情報をきめ細かく家族に伝え、本人を支える協力関係を築こうと努力している。	○	本人と一緒に支えていく関係作りが大切だと理解していただけるように、正しい情報を提供していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族の本人への思い、ご本人の家族への思いを受止めて、両者の思いが結びつくように働きかけを心掛けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の協力のもと、お寺参りや以前から通っていた美容室に通われている。ご近所の友人・昔の会社の同僚・親戚などからの手紙・電話・訪問がある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性については情報を共有し、全職員が連携できるできるようにしている。また心身の状態や気分・感情で日々変化するので注意深く見守っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	当ホームを退所されても訪問したりして関わりを継続していた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	現在の自分を認めることが出来ず、昔のままと思っている入居者さんに対して、以前の一人暮らしを望まれても実現不可能なことが多く、その中で何が出来るのか・何をされたいのかを引き出している。	○	今、現実出来ることで満足出来るように関わっていく。ご家族にもご本人の今を大切に思っていたけるように関わっていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族・ご本人からの情報を活用し、その人の生活暦を細やかに把握し、日々のケアに反映できるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作より感じ取り、本人の全体像を把握している。生活・心理面の観察や出来ないことより出来ることに注目しその人全体を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映している。介護計画の作成については全職員で意見交換・モニタリング・カンファレンスを行なっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご本人の状況の変化した時、期間の途中であっても全職員が話し合いを持ち、介護計画の追加・変更を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄・バイタルなど日々の身体的状況、くらしの様子や本人の言葉など記録している。勤務前に確認するように義務付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人・ご家族の状況に応じた通院や送迎等、必要な支援には柔軟に対応し個々の満足を高まるような努力をしている。	○	環境が整ったときにはグループホームとしてのデイサービス・ショートステイを考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察のSOSネットワーク、消防訓練・救急救命講習などの消防署の指導、地域の文化発表会への参加、小学校の行事の参加などで協働し合っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	医療機関のデイサービスを利用している入居者さんがいる。訪問理美容サービス、訪問マッサージのサービスを利用されている方もいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加することで情報交換や解決できない問題など相談しやすくなった。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるようにご家族と協力して通院介助を行なったり、訪問診療に来てもらったりすることがある。複数の医療機関との関係を蜜に結んでいる。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	開設当初より知り合いの認知症専門医療機関と連携があり、相談したり助言をいただいたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	連携している医療機関より週一度訪問看護を受けていて気軽に相談したり助言をいただいたりしている。その他週二回パートの看護師を配置している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また家族とも情報交換をしながら回復状態など、速やかに退院支援に結び付けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族に相談できるタイミングを見計らいながら将来の方針について協議をしている。その際には医療機関にも協力をお願いしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	対応してくれる医療機関との連携があり、今後の変化に備えてご家族とも話し合いをもっていく。	○	本人の気持ちを大切に家族との話し合いをする。入居さんが安心して終末期を過していけるように取り組んでいきたい。
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	新しい環境に入られてもこれまでの暮らしの継続性が損なわれないようにするために、情報交換をし職員が機会を作って訪問する。新しい環境に不安なく馴染めるように援助していく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ミーティングの折に職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方で入居さんの誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員は入居者さんと過す時間を通して入居者さんの希望・関心・嗜好を見極めてそれを基に日常生活の中でご本人が選びやすい場面作りをしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れはもっているが、時間を区切った過し方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時のご本人の気持ちを尊重し、できるだけ個性のある支援を行なってる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	個々の生活習慣に合わせて支援し、行事や外出時にお化粧やおしゃれなどを楽しんでもらえるように取り組んでいる。ご本人の馴染みの理美容室で希望に合わせてパーマや毛染めをしてもらっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理・盛り付け・片付けなど入居者さんと共に行い、職員と入居者さんが同じテーブルを囲んで楽しい食事が出来る雰囲気作りを大切にしている。旬の食材を取り入れた食事を工夫し、時には外食や個々のお好きなものを選んでの出前など変化を取り入れている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	以前はタバコを吸われる入居者さんが居て、職員が預かり本人の希望にそって他の入居者さんの迷惑にならない場所で吸っていただいていた。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来る限り自立排泄できるように入居者さんの排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。安易にオムツ使用はしていない。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は希望にそったタイミングで実施し、時には足浴・銭湯・日帰り温泉等楽しめるよう支援している。また同性介助を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者さんの生活パターンを尊重した睡眠をとっている。寝付けない時には温かい飲み物を飲みながらおしゃべりをしたりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の了解を得て、小額のお金を持っている人も居る。家族よりお金を預かり、管理している人でもご自分の買い物時にはお金を自分で払っていただけるようにお金を渡している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気・本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につなげている。日常的に散歩・買い物・ドライブ・外食などに出掛けることを多く持っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりの思いや願いが叶えられるように入居者さんご家族と相談し、協力を得ながら実現に向けられて取り組んでいる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者さんの力に応じて暑中見舞い・年賀状を書いてもらったり、手紙のやり取りをしていただいている。電話の対応はその都度支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも誰でも歓迎し、出迎えをしている。入居者さんと楽しくゆっくりと過ごしていただけるようにあまり過度に気をつかわないように心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についてはミーティングや運営推進会議で研修をし、全員がデメリットを認識し身体拘束をしないケアを実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員の見守りの方法を徹底し、また一人ひとりの気分や状態をきめ細かく注意することで、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしをしていただいている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は入居者さんと同じリビングで事務作業を行いながらさりげなく全員の状況を把握するように努めている。夜間は1～2時間毎に様子を確認するとともに目を覚まされたときは直ぐに対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者さんの状況をみながら厳重に保管すべきもの（薬等）、保管管理が必要なもの（洗剤・刃物）、入居者さんが使うたびに注意の必要なもの（裁縫道具・ポット）に分けて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には速やかに事故報告書を作成し、札幌市に提出している。事故原因を全職員で検討し、今後の対策に役立てご家族への説明・報告を行なっている。	○	・夜間の排泄パターンを把握し転倒防止。 ・服薬チェック表による服薬事故防止。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を実施したり、看護師のスーパービジョンを受けて職員の力がかなりついてきている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を定期的に受けている。	○	自衛消防隊を結成し、職員が役割を分担し担っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	様々な役割活動や自由な外出によりリスクが高くなるものの、入居者さんの今の出来ること、やりたい気持ちを大切に、満足された表情をご家族にも見ていただき説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握し、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時にはバイタルチェックを行い記録をつけている。状況によっては医療機関を受診する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書はケース毎に整理し、職員が内容を把握できる様にしている。服薬は本人に手渡し、きちんと服薬できているか確認できるまでそばを離れない。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。体操・散歩・家事活動などを適度に設けて自然排泄できるように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり介助を行ったりしている。就寝前には義歯の洗浄(ポリデント)をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	市より感染症の発生情報やマニュアルなど届くので全職員は目を通し、学習の機会を持ち早期発見・早期対応に努めている。入居者さん・全職員はインフルエンザの予防接種を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板やふきんは毎晩漂白し清潔を心掛けている。冷蔵庫も点検・掃除し、食材の残りは鮮度や状況を確認し冷凍したり処分したりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	明るい雰囲気のある玄関になるように花を生けたり手作りの飾り物などを置いて季節感を出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食器を洗う音、調理中の匂い、心地よい音楽やテレビの音、リビングから見える庭の花や鳥、季節感のある食卓など五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	限られた共有スペースの中で一人になれる場所が作られていない。	○	ハード面で手狭であり、入居者が時には一人で庭を眺めたりゆっくりと出来るスペースを作りたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ダンス・イス・ベットなど入居者の馴染みの物を持って来ていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	リビング・居室など換気に心掛けている。入居者の発汗の様子・冷えなどに注意し、温度調整をしている。冬は加湿器を使用し、湿度管理を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	床はバリアフリー、共用部分には手すりを設置し、安全をはかっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者さんの出来ること、出来ないことを見極めて本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるように対応している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花を植えたり畑を作ったりと入居者さんが日常的に活動できる環境を作っている。車イスの方も外の空気や景色を楽しめるように庭にテーブルとイスを置いて活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点を自由記載）
 小さなグループホームですが離職率の高い介護の職場で開設して約3年になりますが離職率がゼロであること。そのことが入居者さん・ご家族から安心や信頼を持っていただける要因になっていると思います。職員はそれぞれに勉強の機会を多く持ちスキルアップが出来ていることが当グループホームのこれからの成長につながっていくと思います。家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの尊厳を大切に、その人らしくご自分のペースで生活していただくこと。入居者さん・職員が共に支えあって安心して生活できる終の棲家でありたいと思って日々仕事をしています。